

『経済学史研究』執筆要領

(1)見出し数字

論文の節分割はローマ数字（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，…）で行い、見出しを添える。さらに区分する場合は、アラビア数字のピリオド添え（1., 2., 3., …）とする。

(2)句読点

句読点は「,」「.」（カンマとピリオド）で統一する。

(3)人名

人名の日本語表記（カタカナ）について、経済学史学会編『経済思想史辞典』（丸善）に記載されている場合は、原則としてそれに従う。

(4)図表

図表は別ファイルに作成し、本文の該当箇所に【ここに図1（または表1）を挿入】と指示する。当該図表の下に「表1 1920年代の失業率」などと題を付けておく。

(5)注

注は「末尾注」として、論文本文の末尾にまとめる。注番号は1), 2),などと振り、「上付き、片パーレン（丸括弧）、半角」とする。なお、単なる典拠注は、本文の中に入れる（次の項目を参照）。

(6)引用

原典の省略は、「…」（三点中黒、一字分）で示す。引用者による挿入・改変の断り書き等は、「[]」（ブラケット、角形括弧、半角）で示す。また、独立した長い引用の場合は、前後に一行空けて各行を一字下げるなど、引用であることを明記する工夫を施すこと。以下、具体的に例示する。

★ここでのマルサスの主張について、羽鳥（2000, 104）は「…合計価値額が減少したために、労働需要が減少した」と解釈する。

- ★Winch (1987, 105, 107／訳 108, 110) によれば, マルサスは… [／全角]
- ★「我々の計画は…受給者がそれ以後、個人的責任から逃れさせるようなものではない」(Beveridge 1942, 170) .
- ★「為政者がいかなる場合でも手形を平価で与え…」(Steuart [1767] 1995 [以下、Works と略記], vol. 3, 461) ることになる.

(7)参考文献

「参考文献表」は「末尾注」の次に置く。洋書（著者の ABC 順）、和書（著者のアイウエオ順）の順で分けて並べる。同一著者で同一年に 2 つ以上ある場合は、年号の後に a,b,c 等を付けて区別する。雑誌名や著作名はイタリック（できれば下線付）で指示しておく。紀要の場合の発行大学名、洋書の場合の出版地、章の場合の該当ページなど、詳しい情報も付記するのが望ましい。以下に例示する。

参考文献

(複数著者の場合)

Henderson, W. and W. J. Samuels 2004. The Etiology of Adam Smith's Division of Labor: Alternative Accounts and Smith's Methodology Applied to them. In *Essays on the History of Economics*, edited by W. J. Samuels, W. Henderson, K. D. Johnson and M. Johnson. London and New York: Routledge: 8-89.

(複数編者の場合)

Kresge, S. and L. Wenar (eds) 1994. *Hayek on Hayek: An Autobiographic Dialogue*. Chicago: The University of Chicago Press. 嶋津格訳『ハイエク、ハイエクを語る』名古屋大学出版会, 2000.

(雑誌論文の場合)

Pullen, J. 1979. Malthus on the Doctrine of Proportions and the Concept of the Optimum. *Australian Economic Papers* 21 (39) : 134-154.

(全集等の場合、初出と異なる版、略語付)

Steuart, J. [1767] 1995. *An Inquiry into the Principles of Political Oeconomy*.
2 vols. In *The Works*, 6 vols. London: Routledge / Thoemmes. [Works]

(単行本の場合、訳本付)

Winch, D. 1987. *Malthus*. Oxford: Oxford University Press. 久保芳和・橋本
比登志訳『マルサス』日本経済評論社, 1992.

(単行本の一部からの場合)

羽鳥卓也, 1976. 「『国富論』における生産的労働と蓄積ファンド」『国富論の成
立』所収, 経済学史学会編, 岩波書店: 226-250.

(雑誌論文の場合)

羽鳥卓也, 1991. 「マルサスにおける農業主義と商工業主義」『マルサス学会年
報』(1): 1-20.

(単行本の場合)

横山照樹, 1998. 『初期マルサス経済学の研究』有斐閣.

(8)英文要旨

英文要旨は、ページを独立させ、「参考文献表」の次に置く。ただし全文が英
文の場合は、論文の最初に **Abstract** の形で置く。要旨の最後に、**JEL** 分類番号
を3つ以内で添えること。

(2001.8 作成、2006.5 改訂)